

令和4年度学校経営評価（保護者編） 考察

1 肯定的な回答が多かったもの

「基本的な生活習慣」「服装や礼儀」「健康・安全」等について、85%を超える肯定的な回答が寄せられた。本校の「四つの約束」として生徒・教職員ともに力を注いで取り組んでいる部分であり、成果として認識されていることを非常にうれしく思う。

また、設問18の「学校行事は生徒が主体となり、充実した活動となっている」に対しては86%の肯定的な回答が得られた。コロナ禍においても、工夫を凝らしながら学校行事を運営している。また、リーダーを中心とした生徒自身による行事の企画・運営の実現を通して、生徒たちの充実感が家庭にまで伝わっていることが確認できた。そして、設問24の「お子さんは楽しく学校生活を送れている」に対しても87%の肯定的な回答が得られた。学校としては、多くの生徒たちが充実した学校生活を送れていると保護者の方々に実感していただいていることは、何よりも安心できる材料である。

これらの成果は保護者の方々のご協力があってこそのものである。より学校と保護者（家庭）が連携をし、生徒を育ていけるような環境づくりに今後も努めてまいりたい。あわせて、より多くの生徒や保護者の方々に魅力がある学校になるように引き続き努力を重ねていきたいと思う。

2 否定的な回答が多かったもの

設問8「学校は教育相談や日常の支援を通して生徒をよく理解し、悩みや問題に適切に対応している」に対しては21%の否定的な回答が寄せられた。多くの職員の目で生徒たちを見守るとともに、生徒に寄り添いながら迅速に対応することをモットーとして指導・支援にあたっている。生徒や保護者の要望と整合できるよう、さらなる連携を図るとともに相談体制の充実を図る。

「定期テスト・家庭学習への取り組み」に関する設問15と設問17に対しては、否定的な回答が35%前後で推移している。昨年度も家庭学習の習慣化と定期テストへの取り組みに関して大きな課題が投げかけられた。昨年度の評価をもとに、授業の中で予習・復習を含めた学習方法や、学習内容の定着に向けた家庭学習の方法等について意図的に指導してきた。テストについても対策を講じてきてはいるが、その成果を実感するまでには至っていないということが分かる。より充実したものとなるよう、今後も方策を練っていく。

3 不明（わからない）の回答が多かったもの

「進路指導と学習意欲向上につながる授業」に関する設問13と設問14は「分からない」という回答が20%、否定的な回答と合わせると40%を超えた。一方で生徒の回答を見ると、90%前後の肯定的な回答が寄せられている。進路学習や学習の意欲化は本校でも重点を置いて指導・支援している事項であるが、その成果が見て取れない、保護者の方々が実感できるまでには至っていないということであると考えられる。今後、学習・指導内容を見直すとともに、家庭（保護者）と情報や成果が共有できる手立てについても検討していきたいと思う。

今年度より、学校だよりにおいて学校全体の取り組みだけでなく、1～3年生の様子が分かるような記事も掲載するようにした。「当該学年だけでなく、他学年の様子も知りたい」という昨年度の要望に基づいたものである。しかし、記事の内容は学校行事に関するものが多く、日常の学習の様子を伝えるものが不足していたと思われる。日々の授業展開における工夫や生徒たちの意欲的な学習態度、進路学習の状況等を伝えられるよう、学校だよりやマチコミメール等も活用しながら発信を心がけていきたい。

令和4年度学校評価アンケート（生徒編） 考察

1 学習面

学習面において、肯定的な回答が少なかったものが2つ挙げられる。設問7「私は校内テストに向けての計画を立て、しっかり取り組んでいる」が75%、設問8「私は家庭学習の習慣がついている」が76%である。生徒のおよそ4人に1人が否定的な回答となる。

テスト計画に関わる設問7について、昨年度は53%の生徒が否定的な回答を寄せていた。この結果を全職員で共有し、日頃の家庭学習の方法やテスト計画の立て方、テストに向けた学習方法等について、4月から重点をおいて各教科で指導にあたってきた。その指導の成果として改善傾向にあることが確認できた。今後も継続的に指導・支援にあたり、さらなる意識改革を進められるようにしたいと考える。

また、設問8に関しては昨年度と同等の結果となっている。年度初めの各教科のオリエンテーションの中で学習方法について言及するとともに、予習・復習を含めた学習方法や学習内容の定着に向けた家庭学習の方法等について、随時アドバイスしていくように努めてきた。今年度の結果をもとに、さらなる向上が実現するよう、指導内容や家庭学習の定着に向けた取り組みを引き続き検討していきたい。

2 生活面

生活面において肯定的な回答が90%を超えたものが5つ挙げられる。設問10「時間を守る」、設問11「人の話をよく聴く」をはじめ、生活面においては多くの生徒が概ね肯定的な回答を寄せている。ほとんどの生徒が、本校の学校教育目標に含まれている「4つの約束」を意識して生活を送っていることをうかがえる結果となった。

一方、設問9「私は自分の意見をきちんと言える」と設問18「私は規則正しい生活を送っている」の2つに関しては、それぞれ否定的な回答が26%と23%で推移している。

現在、授業において生徒同士のやりとりや意見交換、学び合い等を取り入れた形態を実践している。また、学級活動や行事等においても生徒の意見交換を通じた取り組みを進めるなど、活動を工夫しながら意見を言う環境を整備している。今後もこれらの取り組みを継続し、自信をもって発言・発表ができるような環境づくりに努めていきたい。

また、規則正しい生活については、早寝早起きや時間を守ること等、家庭と連携しながら今後も働きかけていきたいと思う。

3 学校生活全般

学校生活全般において肯定的な回答が少なかったものが2つ挙げられる。設問22「私は先生から信頼されていると感じる」が71%、設問32「悩みや困ったことがあるとき、私は先生に相談することができる」が70%である。

設問22に関して、生徒の中に自己肯定感が低い傾向があることは本校の課題となっている。この傾向を教職員全体で共有し、全教育活動を通じて自信を育む生徒指導の充実と豊かな心の育成をめざして改善に取り組んでいるところである。今後も生徒が主体となって取り組む活動場を設定し、その成果を認め合えるような人間関係や環境づくりを構築し、生徒それぞれが自己有能感を高めていけるように尽力していきたい。

設問32については、生徒との対話の機会を確保するとともに、生徒の言葉に耳を傾けられる組織的相談体制の充実に引き続き努めていきたいと思う。

令和4年度学校経営評価 学校関係者による考察

1 授業や家庭学習に関して

- ・家庭における学習も学校頼みにしている感がある。子どもたちに対する学習面でのフォローについて、学校と家庭において役割分担を明確にしても良いのではないか。
 - ・現状として、小学校では子どもの宿題の進捗状況を親が確認している。中学校になると、宿題や学習全般に対して保護者の関りが少なくなる傾向がある。その意味で、保護者の家庭学習への関わりを増やすべきではないか。
 - ・一方で、中学生の発達段階を考えると、子どもたちは自立に伴って親との距離をとろうとする。その状況下で親との関りを増やすことは可能か。見守るという姿勢も大事ではないか。
 - ・学習に関し、意図的に親と子の関りを設定しようとすることは、無理しない方が良いのかもしれない。
 - ・学習面に関して、学校評価で肯定的な回答が比較的少ない設問があるが、自分の子どもの成績が良くなかったら、肯定的な回答は出しにくいだろうと思う。
- ☆学力向上は上志津中学校の課題である。生徒と保護者の乖離を解消するためにも、保護者の関わり方を提示する、学習面の何を見てほしいのかを保護者に発信していくようにする。

2 否定的な回答に対して

- ・否定的な回答については、その理由まで探してほしい。
 - ・特に「いじめや差別」に関する設問に対する否定的な回答の理由は確認すべき。否定的回答の割合の大小ではなく、設問の質から対応を考えるべきである。
 - ・他にも、先生からの信頼度や学校施設の安全に関する項目も否定的な回答があるならば、その理由や原因に注目してほしい。
- ☆いじめについては年3回、他に教育相談アンケートを年3回実施し、一人ひとりの生徒の実態把握に努めている。また、毎月、安全点検を職員が実施している。無記名のアンケートから事情は確認できないので、日々のやりとり帳等を通して認知を図る。

3 総合的に

- ・中学生の発達段階や傾向を考えると、無理に関わりをもとうとするのではなく、観察・見守りの姿勢が大事なのではないか。帰宅した時の表情を見たり、食事の量を気にしたりして、子どもの現状を把握しようとする姿勢を大切にすべきである。
 - ・自分の意見を言いづらい生徒が26%いる。言えるチャンスを設定する、言えるようになる手立てを考えるべきだと思う。
 - ・学校評価に対するフィードバックを考えてほしい。
 - ・その他の気づきや自由記述の数が少ないことを考えると、この意見や内容に対して学校が過度に左右される必要はないのではないか。
 - ・一方で、その他の気づきや自由記述の裏付けをとることは必要であると感じる。
- ☆学校生活に関して気になることや心配なこと、要望などは、その都度学校に連絡・相談できるような関係づくりを一層進める。